

# 踏切の立体化で、鉄道で分断された市街地の交流を活性化

— 都市計画道路 中内大塚線(取手市藤代) —

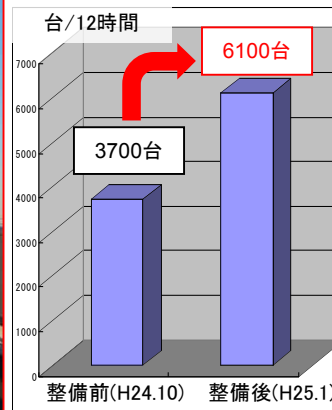


## 【課題】

- 取手市の藤代駅周辺はJR常磐線の北側を中心に発展してきており、近年藤代駅南側の区画整理事業や団地造成によって、駅周辺の発展の基礎が整いつつあります。
- しかしながら、街の南北を結ぶ道路は狭い路地や踏切のため、朝夕のラッシュ時に慢性的な渋滞が見られるとともに、緊急の防災活動などにも支障を来す恐れがありました。また、このことが、街の均衡ある発展を阻害する要因となっていました。特に、新田踏切は朝夕の著しい渋滞が発生していました。

## 【整備効果】

- ◎藤代陸橋を整備し既存の踏切を除却したことにより、踏切事故の可能性が無くなるほか、分断されていた街の南北の交流が活性化し、整備前と比較して、**自動車交通量が約1.7倍**になりました。



▲自動車類交通量の推移



## 【事業概要】

- ・期 間 H9年度～
- ・事業費 35億円
- ・内 容 踏切除却